

ヨーネ病の研修会を行いました

ヨーネ病は、我が国で最も多発する牛の法定伝染病です。法定伝染病とは家畜伝染病予防法に定められた疾病で、と畜検査で発見した場合は、全部廃棄措置の後、届出が必要となっています。その後、発生農場にて、まん延の予防対策がとられます。診断淘汰により防疫が進められていますが、漸増傾向を示している重要な疾病です。今後、と畜検査時にヨーネ病に遭遇することも考えられることから、再確認のため研修会を開催しました。

☆ ヨーネ病とは？

本病はヨーネ菌 (*Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*) の感染によって牛をはじめとする反芻獣(山羊、めん羊等)に起こります。

牛では、病牛の糞便に汚染された、乳汁や水を飲むことにより感染します。菌は小腸から侵入し、そこから腸全体へと広がり、長い潜伏期ののち発病します。

小腸の肉眼所見



☆ ヨーネ菌って？

マイコバクテリウム属菌で抗酸染色によって赤色に染まる、結核菌によく似た形をした菌です。

抗酸染色とは、ヨーネ菌や結核菌のような抗酸菌を染め分ける染色法です。

ヨーネ菌は、発育にマイコバクチンと呼ばれる特別な成分を必要とし、寒天培地上のコロニー形成には2箇月以上を要する遅発育菌です。

☆ 症状は？

慢性で頑固な下痢を主徴とします。

腸の肥厚は肉眼的に、はっきりしないものから、明瞭なものまで様々です。腸粘膜の顕著な肥厚は様々な程度の皺壁を形成し、“大脳回転様”とか“わらじ状”などとよばれる特徴的な症状を示します。

発病から数箇月～1年以内に大部分が衰弱死してしまいます。

腸粘膜の顕著な肥厚（わらじ状）



☆ 予防・治療は？

糞便中のヨーネ菌検査による排菌動物の早期摘発、子牛と成牛の糞便との接触を避けることが最も効果的な感染予防策となります。化学療法による治療は困難です。